

会 議 録

会議の名称	第4回豊中市環境審議会（第11期）		
開催日時	平成28年12月13日（火）午前18時～20時30分		
開催場所	豊中市立 eMIRAIE 環境交流センター	公開の可否	㊦・不可・一部不可
事務局	環境部環境政策課	傍聴者数	1人
公開しなかった理由			
出席者	委員	上甫木委員、浅利委員、猪井委員、大久保委員、下田委員、田中晃代委員、花嶋委員、野村委員、田中伸生委員、熊本委員、廣田委員	
	事務局	脇山環境部長、井藤環境部次長、勝井環境部事業長、柿本環境部参事、澤坂環境政策課長、吉村減量推進課長、中村公園みどり推進課長、安好主幹、三川主幹、高田課長補佐、樋上課長補佐、大西副主幹、藤岡副主幹、奥田係長、小林主査、槌谷主事	
	その他	(株)総合環境計画	
議 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第3次豊中市環境基本計画の策定について ・ その他 		
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 資料1：第3次豊中市環境基本計画（骨子案） ・ 参考資料：第3次豊中市環境基本計画策定に向けて ・ 当日配布資料1：環境基本計画新旧対照表 ・ 当日配布資料2：環境部における事業費の推移（施策体系別決算額） ・ 当日配布資料3：豊中の未来を考える 子ども（次世代）環境ワークショップの実施について ・ 当日配布資料4：「第3次豊中アジェンダ21」策定の進捗状況 		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

○開会

- ・委員の出席状況と会議成立の報告
- ・資料の確認

議事内容

1. 第3次豊中市環境基本計画の策定について

○会長

案件1、「第3次豊中市環境基本計画の策定について」について、事務局から説明をお願いしたい。

○事務局

(資料1(第3次豊中市環境基本計画(骨子案)))に基づき説明)

○会長

これから審議していきたいと思うが、いま事務局から説明があったように、まず3ページの本計画の3つの視点と、目標1と目標5について、一つずつご意見を伺いたい。まず3ページの計画策定に関する3つの視点ということで、なにかご意見があれば、述べていただければ。当日配布資料1(環境基本計画新旧対照表)で、現行と今回の違いは、一つは「協働とパートナーシップの姿勢」を、「協働とパートナーシップをひろげます」ということで、「ひろげる」という次の段階という表現で書かれている。参加・参画などを後押ししないといけないというこれまでの意見もふまえ、それが記載されている。それから両輪をさらに深めていく必要があるということ。二つめは、4ページに図があるように、環境基本計画の下に付ける個別計画を総合的に推進するということだが、環境基本計画の横にある分野別計画との連携も図る内容であるというような書き込みをされている。三つめは、地域特性に考慮しながらということを特に今回は打ち出しているが、ご意見などないか。

○委員

少し細かいことなのかもしれないが、3ページの③「将来に向けた持続可能なまちづくりを進めます」の2行目から3行目で長期的な視点で「第2次豊中市地球温暖化防止地域計画の考え方にある～」と書いてあるが、おそらく長期的な観点というのは、ほかの分野別計画でも当然入っていると思う。「各個別計画の考え方にもある」などの表現がよいのでは。

○会長

こういう言葉遣いを個別計画のほうにも入れておくということか。

○委員

個別計画にも長期的なまちづくりの視点がないと作れないと思う。どこにも入っていると思うが、ここだけにしかないところだけにしか書いてないと見えるので、そういう誤解のないような表現にするべき。

○委員

3つの視点そのものは特に反対でもなんでもなく、載せることは大事だが、事務局や会長の説明を聞くと、ここに違いが出たということは分かるが、特別、第3次だからこの視点を盛り込んだわけではないように見えてしまう。例えば③「将来に向けた持続可能なまちづくりを進めます」でいうと、地域という視点で考えていこうと会長がさっきおっしゃったことが、もし仮に特徴であるなら、それをもっとキーワードとして、ここが第2次と第3次で同じように見えるが特に注目しているなど、あるいは協働とパートナーシップも実は同じように文章を書いているが実はここにポイントがある、というようなことがもう少し分かると、第3次のときに、よりそこに配慮したということが分かるのではないかと。少し言葉尻を変えて載せているだけのように見えてしまうのではないかと。

○会長

委員の意見は、3つの視点そのものはこれでよいが、なかの表現の仕方にもう少し工夫が必要だということか、それとも、3つの視点の「総合的な環境施策を推進します」などのタイトルに少しキーワード的なものを入れたほうがよいということか。

○委員

できれば、例えば4番目の視点など、あるいは新しい視点が同じ3つでも変わっているなどである。明らかな違いがあればこういうふうに並んでいるだけでも良いとは思いますが、違いを見いだすためには、よく読まないといけないという現状であれば、見出しを変える以外に、キーワードをまず打ち出して、下に補足説明を載せるなどして、ただ文章が並んでいるようなものではない体裁にする必要があるのではないかと。

○会長

このご意見に対して、ほかの委員の方はいかがか。

○委員

私も似たような印象を持っているが、2ページの最後の段落の2行目の後半から「市政の最上位計画である「第4次豊中市総合計画」を策定し、それに合わせ、このたび「第3次豊中市環境基本計画」を策定しました。」とある。4ページに図もあって、第4次豊中市総合計画というのが出てくるが、これを手に取る方のなかには、第4次豊中市総合計画でなにがこれまでと違って力を入れているのかということが頭に入っていない方も読まれるのではないかと考えると、3ページの本計画の3つの視点も表面上ほとんどあんまり変わったようには見えないように思うが、内容的に質は変わっていると思うので、そこを分かりやすく、これまでと今後というような、図かなにかで示すことができるならよりよくなるし、中身も詰まってくるのではないかとこの感じがした。関連するところでは、例えば本計画の3つの視点の①「協働とパートナーシップをひろげます」というところの3行目に、これまで環境に対して関心が薄かったいわゆる無関心層など、もしくは機会がなかった市民の参加・参画を後押ししますというふうにあるが、ただ、実際の案を見ていくと、ほとんど環境教育などに押し込められていて、あんまり従来と変わらないようなかたちではないかと少し懸念している。今後の高齢化、経済格差などを考えていくと、こういうところから放っておくとますます遠くなっていく人も多いなかで、もっと施策的にもいろいろ先手を打たないといけないところも出てくるのではないかとと思うが、その点も含めてもっとリアリティを持った視点にできると、より施策的にも具体的なものにつながっていくのではないかとこの印象を持った。

○委員

まず第1点目の総合計画との関係は、第4次豊中市総合計画自身の中身がまだ明らかになっておらず、なかなか入れられないということがあった。いままで聞いている話では、前回も出たように、たくさんの項目を少数にまとめるということしか出てきていないので、何回も言っていることだが、入れるべきものがあれば第4次豊中市総合計画に入れてもらえるように、こちらから言わなくてはいけないと思う。もし具体的なポイントがあれば、ここでインプットをするように言っておいたほうがよいと思う。3点目の地域特性の話についてだが、計画自身のなかに地域の特徴をどうにかたちで見せるかという話が継続課題になっていて、今日の段階ではまだそこが出てきていないので、ここに書きにくいのが、環境基本計画推進部会のほうで言っているのは、豊中といっても広いので、その地域ごとの特徴が見えるようなもの、地図、マッピングであれなんであれを入れようということでも検討していただいている。それが出ないと今日は難しいと思う。このなかの文章はもちろん今後検討していくということだと思うが、そういう観点でいうと、③「将来に向けた持続可能なまちづくりを進めます」のところの小見出しが、「将来に向けた」「持続可能な」と、どちらも長期的な視点をふまえたかたちなので、それであれば「地域特性をふまえた」などを入れて、「将来に向けた」か「持続可能な」かのどちらかを取ってもよいのではないか。

○会長

具体的なアイデア、ご意見をありがとうございます。

○委員

本計画の3つの視点だが、3つとも関係がとても深くて、単独で存在しているのではなく、例えば将来に向けた持続可能なまちづくりというところで、その地域というのを一括りに考えるということだが、地域を見ていく場合には、やはりいろんな要素があるので、総合的な環境施策を推進しないといけないし、地域のなかで全然環境に携わったことのない人たちの関わりなど、参加・参画の促進などがあるので、大きくはこの地域ということをベースに総合的な環境施策を展開したり、参加・参画をひろげるというような動きになっていく。3つの視点ではあるが、それぞれの関係が深い気がしている。

○委員

3つの視点③「将来に向けた持続可能なまちづくりを進めます」のところでの地域特性というのは、どのぐらいの範囲を見ているのか気になる。この文章からいくと地球規模の環境を意識しつつ、豊中という地域の特性を考慮して、豊中市全体が一つの地域なのか、それとも豊中市のなかのそれぞれの、例えば中学校区のような地域なのか。その辺がよく分からない。

○会長

これは、北部、中部など、豊中のなかでの地域的な違いというか、例えばみどりでは、北部は非常にみどりの割合が高いが、南部は低い。そういった意味合いかと思う。そういう認識で共有化されるということではよい。

○委員

あまり地域の姿というのが出てきてないような気がする。どういう単位の、どういう地

域、例えば北部はこうだが南部はこう、など。この地域はこうだがこの地域はこう、というような記述がどこにもない。この文章からいくと、地球規模で考えるのと、豊中という比較的都会の近郊で良質な住宅地を供給しているというような地域特性をいうのか、自立しているわけではなくて、水は猪名川か淀川からきて、最終処分場は大阪湾に依存していて、下水はどこそこへ流してという、そういうまちとしての地域特性を考慮した環境基本計画というのもありかと思う。

○会長

いま委員がおっしゃったように、ほとんど山がないというような豊中の地域特性が前提としてあり、そういう意味の地域特性は当然入っていて、さらに今回は、そのなかの地域格差とまでは言いすぎかもしれないが、そういうところにも配慮する。うたった以上は、それが出てこないといけないという、非常に重大な問題を自分で投げかけるわけだが。それはよいか。第3次豊中市環境基本計画の一つの目玉ということであれば、さきほど委員がおっしゃったように、少し冒頭の部分で地域特性をふまえたなど、そういった表現があったほうがよいかと思うが、事務局のほうではいかがか。それから、さきほどの委員の話は、もう少ししなにか具体的に書けたらよいということだったと思うが、そのあたりについてご意見があれば。

文言については、さきほど委員からお話があったように、もう少し変わったところを強調するような書き方をもう少し工夫できればよいと思うので、検討課題としていただければ。さきほどの地域特性をふまえたようなかたちで、見出しのところにあげられるキーワードがあればよいが。

○委員

そういう意味では、環境省の環境基本計画も来年ぐらいに書き直しになると思うが、毎次どういうテーマを掲げていて、ここまでいったのでここにいくというような基準が分かるような整理になっているので、そういうものがどこかに入れられるとベターだと思う。

○会長

これまでとこれからの比較のようなものか。

○委員

そうである。

○会長

計画のときにいつも悩む話だが、以前と比較するというのは、どこが変わったかという意味では計画策定する段階で非常に重要である。ただ手に持つ市民のほうには、これからどうかというようなところが大事ではないかと考える。

○委員

どこまで達成できたのかという意味では、環境省の環境基本計画で書かれているようなかたちだと、どこまでできたのかという印象は持つので、そういう整理をしていけるならと思う。

○会長

ここへ単に移行するというのではなく、ここまで達成したので、それをふまえてこうするというようなものを、この視点のなかに入れるか、あるいは至る前のところで説明を入れられればということか。特に、変化する部分についての説明があればよいという。

○委員

今日はあまり審議の対象になっていないのかもしれないが、いままでどこまでできて、これからはこれが課題だからどうするかというのは、第4章の各節に入れていこうということで、それは4-1でいうと12ページが環境目標で、15ページに「これまでの豊中市の取組みと現状、課題」が入っている。少し順番がおかしくないか。環境目標のあと、施策の方針の前がよいのではないか。いままでこういう取組みをしてきて、それで課題はこうなっているので、今回施策の方針としてこれとこれを打ち出してこうするとあり、次に13ページからの具体的な施策の方針が入ってくると分かりやすいのではないか。その施策の方針のあとに、取組みと現状、課題などが出てきても、課題を解決するためになにをするかという流れが分かりにくい。順番を入れ替えて、それぞれの現状、課題と今後の方針のところは、もっときちんとこれから書き込まないといけない。

○会長

例えば15ページの「これまでの豊中市の取組みと現状、課題」というのは、これは目標1についてのお話か。

○委員

そうである。

○会長

そのなかでは、逆にそのほうがよいということか。

○委員

前回までの話で、いままでは第2章のところで現状と課題を書いていたが、そうすると項目別のところに同じことを書くことになるので、これを各項目のところに入れ込んで、いままでやってきたことと残された課題を示し、だからこうしますというふうに変えていくというのが基本的な考え方だったと思う。

○会長

第4章のところを、構成を少し入れ替えるということ、また、いま委員がおっしゃった、要するに本計画の3つの視点ということも、その視点にかかわる現状と達成したこと、残された課題などというものがその前にあって、それでこの視点が出てくるという、その説明の部分を入れるということでしょうか。流れがより分かりやすくなる。

○委員

3ページ目の1行目に「得られる課題をふまえつつ、特に次の3つの点を重視しました」と書いてあるが、この得られる課題をどう捉えたのかということ、数行でもよいから書き込むほうがよい。

○会長

ここは少し説明を補足することによって、これまでの達成をふまえて、これからのことが明確になるということであり、流れはよくなる。ほかにはどうか。いま出たような意見で、この3つの視点は修正してもらおうということによいか。それでは、最初の3ページについては以上にして、次に移りたいと思う。次は12ページの環境目標の1について、ご意見を伺いたい。特に指標等について、ご意見を伺えればと思うが、さきほども委員からあった現状課題は最初を書く。節のところでそれぞれ現状課題があって、環境目標、それをふまえて今回こうするというように構成を変えるほうが流れとしては分かりやすいが、いかがか。

○委員

さきほど委員がおっしゃった現状と課題を前に持ってくるというのは私もそう思うが、そうすると8ページの豊中市の環境の現状と課題（総括）というところで同じようなことを言っている。目標1から目標5のもとになる現状と課題が、上から順番に全部あると思うが、例えば、いまの目標1のパートナーシップの話は、8ページの現状と課題とほとんど同じのように思う。

○委員

おそらく趣旨としては、なにもないまま入っていくと、今日の環境を取り巻く社会の状況というのがあって、地域特性をふまえるというのに地域の話がなくておかしいので、総括で個別のところをまとめて、ここの2.2「豊中市の環境の現状と課題（総括）」で、全国の動き、それから豊中市の動きを入れようということだ。ただ、確かにここに書いてあることがほとんど4章と変わりがないではないかということだと思うので、全体的な豊中の変化としてこういうものがあつたというふうにまとめたほうがよいかも。それから、10ページの「環境目標」と「目標達成のために取り組むこと」も、総合的な取組みのところとの関係について、3行目に「第4次豊中市総合計画」における、主に第3章と整合を図っている、ということになっている。こども環境基本計画推進部会で厳しく指摘があつたと思うが、3章だけでなく第4次豊中市総合計画のいろいろな分野にくさびを環境として打ち込んでおかないといけない、3章のなかに矮小化するなという話があり、「主に」とは入れているが、言葉が一人歩きすると嫌なので、もう少し、各章にも関係があるという話を、きちんとどこかに入れておいたほうがよい。そういう話を2.2「豊中市の環境の現状と課題（総括）」のところで入れたほうがよいのでないか。

○会長

確かにこの8ページのいまの書きぶりは、ほとんど第4章と変わらないので、ご指摘があつたように少し横断的なお話など、第4次豊中市総合計画との関係性などを書いて、そして、次の環境目標の指標の選定の基本的な考え方など、そういうのを少し入れてもよいのではないか。要するに各個別計画からあがってくるものもあるので、考え方として新たに加わったものなど、そういうようなものをここで入れるような。そういうものを受けて具体的に個別のところの現状課題を再認識して、指標が設定されるということである。

○委員

さきほど出てきた地域特性の話で、豊中をいくつかの地域に分けて、地図かなにか載せてもう少し分かりやすく表現したほうがよいというのは、この8ページの2.2「豊中市の環境の現状と課題（総括）」に入ってくるという理解によいか。それともまた別のところに置かれるイメージか。そこが理解できなかった。

○委員

それはまだ具体化しておらず、むしろここでよい案があればいただきたい。地域特性を表すというときに、逆にいうとどんなものがよいか。

○委員

第2章は最初に社会全体と地球全体と日本の状況があって、その次に、2.2「豊中市の環境の現状と課題（総括）」は豊中全体というか、豊中を地域として見たときの状況があるとしたら、その次に、さきほどおっしゃったような豊中市のなかでこの地域にはこういう特徴があるというようなものがくるのではないか。この2.2「豊中市の環境の現状と課題（総括）」は、いろいろな方から言われているように、それぞれの項目ごとに切ったものをまたここに合わせるのではなくて、もう少し日本全体から見て、じゃあ豊中という地域はどうなのかというようなことが、ここにまとまっていたらよいという気がする。この文言はまだこれから変わるのか。少し気になったのは、循環型社会づくりにおいては～と細かいことが書いてあるが、それよりも、新しい焼却工場が建ったが、人口が増えたから焼却能力が少し足りないなど、大阪湾のフェニックスがもうあと10年ぐらいで埋め立てができなくなってしまうことも考えなくてはいけないといったことが、大きな状況なのではないか。

○会長

さきほどの委員の、地域特性がどこに入るかという部分に関連してなにかご意見は。私が思っているのは、この8ページの2.2「豊中市の環境の現状と課題（総括）」というのは、3章以下に目標が5つ出るので、この目標を出し、それを踏襲するというような話、あるいはその目標に対し具体的にどういう指標でやっていくというようなことなのか方向づけが分かるようなことが、ここには書かれるのがよいと思う。地域特性云々というのは、もっと全体に関わる話なので、さきほどの3つの視点が出てくる前に、やはり地域ごとに考えないといけない。いろんな活動にしても、地域ごとに違うということがあるので、前のほうにそういう問題点の指摘が出てくると。それを受けて、視点のところで地域的特性をふまえた、というような話があるほうが流れとしては良い。この8ページは、次の目標に向けた課題の整理というかたちのほうが、計画としての流れはよいのではないか。そのあたりはどうか。

○委員

質問したきっかけは、例えばほかのみどりの基本計画、地球温暖化防止地域計画などがあり、そういう計画では割と早いほうに豊中市の特性など状況というのがあって、それをふまえて個別に入っていくと思うが、これはどちらかという後ろのほうに豊中市の詳細が書かれており、豊中市の特性としてどのぐらいのことをどのように書くのかなと最初に思った。例えば、いっそのこと序章の「将来のまちのすがた」で、豊中はいまこういうまちであるというような提示があって、こういうところにこんなものがあるなどということも含めた地域特性を簡単に書いておいて、それを以降の3ページ、8ページなどでも必要であればふれると。どこに入れても収まりづらいならば、いっそ冒頭に、より平易なかたちで豊中ってこんな特性だということを、地図なども入れながら載せてしまうということもあるのかと少し思いついた。

○会長

それは、市民の方に見せるときの一つの手段としてはよいかもしれない。要するに、エッセンスが最初にあるというのは分かりやすさがあると思う。全部読んでいかないと構造が

見えないというより、最初に大きなフレームがこうだというように、「将来のまちのすがた」というところで、地域特性やいろんな課題などをふまえながら書くというのは有益な意見かと思う。

○委員

さきほどの委員の進捗の話でもあったように、豊中のまちはいまこの地点にあって、それをよりよくするためにまちのすがたを描くという流れもあるかと思う。

○委員

いまの姿と将来の姿が二つ並ぶような感じか。

○委員

並ぶのがよいのかは分からないが。

○委員

おそらくさきほどご指摘があったように、2. 2「豊中市の環境の現状と課題（総括）」のところでも豊中市全体と地域の話が入るとするのは、確かにおっしゃるとおりである。パートナーシップは全体にかかわるのかもしれないが、例えばリサイクルについてはこの地域でたくさんできているであるとか、またこういうところではイベントがたくさんされているというようなものも入れるなどを入れていくというのもできる。どれがよいかというのをご意見いただけるとありがたい。

○委員

特に環境指標のところは、例えば南部にはこういうものがあって、北部のほうは市民さんのパートナーシップで…など、そういうのを入れたほうがよい。この3つの視点というのが、地域別の課題が、5つの目標に対してこの地域はこれに力を入れるというのが分かるような。最初に地域をイメージするのなら、施策に近いところで話を入れたほうがよいと思う。

○会長

代表指標というのは、いままでは要するに市全体での数値を示してきたわけだが、進捗管理をやるうえでは、地域ごとの数字も出せないことはないが大変ではないか。

○委員

なにか出せるもので良い。例えばエコショップについて、商店街は豊中市内一つではないので、商店街がこんなふうになっているというような感じでエコショップの数が増えてくると、活性化にもつながるかもしれない。やっているところの努力が見えて報われるような、それが商売にもつながるなど、そういうものが出せるところは出すなど、全部やるのが難しくとも、最初のところで地域特性全体を、マップで出していただければよい。総合的に全部捨てる必要はないので、出せるところについてそういう地域特性が出るようなものをちょこちょこで入れるというのがよいかもしれない。

○委員

例えば環境交流センターがあるようなところでは、環境に関する啓発活動のイベントな

どが行われているが、そこから遠いところでは、あまり行われていないというようなことも見えるような、どの辺がたくさんあって、どの辺は少ないといったようなことがある程度見ると、次に少ないところももう少しやってみたらどうだろうかというようなことが見えるかと思う。ただ、あまりにもそれにこだわりすぎると、すごい資料ができあがってきて忙しくなりすぎてしまうと思うので、全部についてそうやるのではなくて、いくつかの指標については地域的に偏りがあるというのが、大まかに見るとよいと思う。

○会長

いずれにしても地域特性の関連づけを少し意識した指標も組み入れたいというご意見である。

○委員

豊中市全体でも一般的になされているが、特徴的にはここでだけしているなど、あるいはここがすごいというようなところがあるとメリハリがつく。

○会長

データとして、例えば活動拠点というようなものがちゃんとカウントできると、活動の差が地域ごとに出るし、あるいは活動している人の住まいがどこかなど、そういったデータが入手できるのであれば、地域ごとの活動の人数割り振りなどができるかもしれない。持っているデータのなかで、少し地域特性との関係が見えるような。

○委員

取組みがなかったところを取組みを広げていくという前に、そういうコアの場というのがあるとひろがりや地域差を分析もできるし、やはり見える化という意味で大切である。

○会長

今後、環境活動の拠点による云々という話は、そういうようなものも少し含めて検討願いたい。その次の各分野の取組み状況、例えば12ページの第4章、目標1の指標のところはいかがか。

○委員

さきほど事務局の説明では、市が市民活動を支援する部分、市の政策に市民が参加する部分、それからお互い協働でやる部分という三つに分けて整理するというのも考えたいというお話だったが、前回の環境基本計画推進部会ときには、それにあわせて指標もそれぞれ設定したほうがよいという話があったはずだと思う。ここでは、政策に市民が参加する部分については全然指標があがってきていないが、例えばパブコメや、より早い段階でのワークショップ等が行われたのがどんな場合であるのかなど、そういうかたちでの政策参加も含めた指標を設定して、それぞれについてなんらかの形で取組みの推進が分かるようなものを設定するという事になってはいたはずである。少し前回の議論と違うという印象がある。具体的に指標をなににするのかというのは決まっていなかったかと思うが、少なくとも政策への参加を測れるものも設定していこうということは議論で出てきていた部分だと思うので、そこも含めてご議論をいただくとありがたい。

○会長

指標の選び出しの基本的な考え方だと思うが、市民が要するにどの程度参加しているの

かという動きと、そういう活動に対して市がどう支援しているか、あるいはいろんな連携がどういうふうなかたちで伸びているかという、そういう側面で指標をあげたいということではよかったか。

○委員

政策参加をどう取るかはなかなか難しいが、例えば支援だったら、講演数あるいは助成金の金額の推移など、取れるものはいくらでもあるだろうという話が出た。

○会長

では、そういう視点も入れて、指標を選定するということをお願いしたい。なにか具体的にあれば。

○委員

少し確認を含めてだが、いくつかの指標が並ぶと思うが、単なる行事の参加のようなものと、政策参加のようなものと、協働で対等でやるものというふうに分類するという理解をしたが。

○委員

後援、共催、それから主催といったもの。市民が自主的にしているもの、行政が主体的にしているものに市民がどう参加するかに分けた指標を設定する。ここであがっている指標というのは、市民側の活動指標であり、それはもちろんそれでよいが、それだけでは足りない。行政の政策形成過程にどれだけ参加できる機会がきちんと作られたかという、4-1-2の①「環境政策への市民参加・参画の推進」に当たるようなもの、それから、支援部分の4-1-2の②「市民やNPOなどの自主的な公益活動の支援・促進」にあたる部分の代表指標になりそうなものも設定したほうがよい。

○委員

例えば12ページの「達成状況の測り方について」という部分で、「協働」という単語と「参加」という単語と「参画」という単語が三つ出ている。政策参加という言い方を使われたが、ローカルアジェンダでも、「参加」と「協働」はよく使うが、「参画」という言葉は使っていない。もしかして、その三つに分類されたものを「参加」の指標と「参画」の指標と「協働」の指標として使いたいという意図が議論のなかにあったのか、ここでいう「参画」とはなににあたるのかというところが、少し分からなかった。

○委員

ここは環境基本計画推進部会では全然議論されていない。「参加」と「参画」がどう違うかなど、この文章も全然検討していないので、そういう意図はない。だから逆に「参加」と「参画」は違うという主張があって、そういう指標を設定したほうがよいなどというご意見があれば、また検討させていただきたい。

○会長

参加・参画というか、要するに自分の関わる組織のなかで動いている状態のものがどう増えるかという話と、組織間でなにか連携したものがどれぐらいあるのかという段階で今回は考えましょうかということであるので、最初の3つの視点のところにあるように、いままでは、その先にある協働とパートナーシップというものをともかく見ようとしていた

が、それはそれで見るが、その手前の段階、第1段階として、どれだけ活動に参加してもらっているかというものを指標として分けて見るほうがうまいというご意見だったかと思う。

○委員

政策への市民参加・参画、市民の活動支援という形で、市民の側の取り組みだけでなく、それを促進するための行政の側の取り組みがどう進んでいるのかを測れる指標も入れ、政策への参加の機会の確保について、どう進んだのかという指標も入れたほうがよいと思う。3つの柱に応じた指標があったほうがよい。

○会長

参加・参画ということと、協働という、それがどれだけ動いたかという話と、そういうものを、行政として参加・参画への支援や、協働への支援などきっちり分けられるか、それは一固まりなのか、そのあたりは具体的な数字が出てからかと思う。

○委員

協働事業提案のうち、環境に関するものの数の推移、あるいは環境関係の助成金の金額の変化、件数の変化など、そういうものも取ろうと思えば取れるので、これらは4-1-2の②「市民やNPOなどの自主的な公益活動の支援・促進」の進捗状況を測る指標として十分なり得るものだと思う。要するに、いままでの指標はバランスがどうも悪いのではないか。

○会長

なぜこの指標が選ばれているのかという、さきほどの委員の話ではないが、それもやはり説明があったほうが分かりよいと思う。

○委員

前回の計画でいうところの25ページがいまの内容に相当すると思うが、まず一つに、指標を全部変えるというのはどうかと思う。活かせるものは活かしておけばよいのではないか。例えば、現行の「実際に環境に関する取り組みをしている人の割合」は、今回の案で書かれている代表指標「環境に関する市民意識調査の結果」のことだと思うが、すべてを否定する必要もないので、それが少し気になった。

また13ページ、14ページに盛り込まれている内容で、特に環境教育の部分というのは、もうこれはパートナーシップを超えたようなというか、かなり幅広いという印象がある。これもこの目標1でカバーするのであれば、指標に反映しないと少しもったいないような気もする。提案としては、この市民意識調査は、これまで継続してある質問もあるが、新しく設定する施策、13ページ、14ページの内容もうまくかいつまんで市民意識調査の設問に入れていただいて、それをもって状況を客観的に見ていくような視点も持っておいてもよいという感じがした。ここからうまく抽出できる気の利いた指標を設定して行って、それを市民意識調査でも見ていく。また、市民だけではなく事業者にも意識調査をすればよいのではないかという気もしている。事業者は、やはりどうしてもそれぞれが豊中市に報告する義務もないという部分で、いつも把握が難しいと思っているところなので、逆に事業者さんの意識調査もすると、そのことで啓発されていくような側面もあるのではないかと思う。あと、いま新たな提案として出していただいている一つめの「環境活動拠点における多様な主体による事業連携回数」の指標について、どういうふうに測ろうかというので、環境交流センターの指定管理事業での連携回数などと書かれているが、豊中アジェ

ンダ21関係のものや、とよなか市民環境会議関係のものではなくてもよいのか。豊中アジェンダ21のほうの計画で扱われるので、なしにしているのかどうかは分からないが、本文のほうではしっかり書かれているので、そこをもし別で見るとすれば、一言書いてもよいような気がした。

○会長

確かに、豊中アジェンダ21との両輪でいくという話で、これが関連づけられると、同時にそれは豊中アジェンダ21の行動の取組みが、ここへ載せることができそうである。そのあたりは少し検討課題になるのか、そのあたりの可能性というか、こういう指標のところ展開できるようなものはないか。

○委員

載せることそのものはよいと思うが、なにをどんな指標の拾い方をするかというところかと思う。さきほど委員がおっしゃった12ページ下段の※1の「環境交流センターの指定管理事業における他団体との事業連携回数」というのと、その次の「花とみどりの相談所における事業連携回数」では、取っているものが大分違い、前者は、指定管理をしているもののうち、ほかの団体と一緒にやったものを数えることになる。後者は、花とみどりの相談所を拠点に豊中緑化リーダー会などがたくさん活動しているので、そういうところが取り組んだ行事数などを数える、と私は理解したが、安易にこの二つは足し算できないと思う。たくさん指標として拾うのはよいが、なにとなにを同じように取って足していくのか、その足し方が適切かというのを考えないといけないのではないか。NPO法人とよなか市民環境会議アジェンダ21の私どもの活動だけ拾うのは結構簡単だが、とよなか市民環境会議に参加しているいろんな団体の活動を全部抽出して足し算をしていくと、各団体から出してもらった各団体の数え方については、いまでも、環境報告書「とよなかの環境」での活動報告の載せ方が団体によってばらばらで、一つの行事を1件として出すところもあれば、年間これだけやりましたというのを1件として出してくるところもあったり、その整理に困っていると聞いたので、総論としては賛成だが、どんな数字の出し方をするかということは、少し精査する必要がある気がする。この13ページ以降の主な施策・事業で、個別の施策が書かれていると思うが、例えば、この主な施策・事業が豊中には不可欠なものもちろん行政としてはあると思うが、なかには第2次豊中市環境基本計画からずっと書かれていて、今回も書かれているだけで、効果があったのかなど、これが実際に取り組んでいるのかということについて、特段見直しをしてないものもあるのではないかと思う。例えばだが、4-1-2の①「環境政策への市民参加・参画の推進」の主な施策・事業で、「協働事業市民提案制度や提案型公募制度の活用促進」というのがあって、例えばこの提案型公募制度については、第2次豊中市環境基本計画のときから「活用促進」とあるが、特に環境部ではこの間、活用は定期的にされているものでないと思う。そういう評価をしないまま、第3次豊中市環境基本計画に盛り込むのか。かたや市民参加、協働などをうたって、その市民と協働をひろげましようと言いながら、制度は使っていないと。実はこういうところを見直すと、これを一つの足がかりとして取組みをひろげるのに、この提案型公募制度の件数というのをちゃんと目標に掲げましようということになると思う。実はその見直しと、なにを重点に置いて指標をあげるかということ、結構関連するような気がして、少し気にはかかる。逆にいうと、それを市のなかで議論をすれば、もしかしたら必然的にこういうものは要するということがもう少し出てくるのではないかと思った。

○会長

具体的な施策の中身は、なかなか我々では理解できないところで、これは少し行政内部で、これまでの事業の評価のようなものをふまえて精査していただくことが必要かと思う。

○事務局

いま、市のほうでは、それぞれの目標に対して作業部会を設置して、そのなかで、さきほど委員が言ったような、主な施策・事業であげている項目ごとに取組みの振り返りを行っている。どういったかたちで環境審議会に示すかは、少し検討させていただきたい。

○会長

指標を設定するときのいろいろな考え方はかなり出たと思うが、具体的にまだあがっていない指標が多いので、出た意見を少しふまえていただいて、こういうような視点や考え方でこういう指標を設定するという、なにかつながり分かるようなかたちで再検討していただければと思う。

○委員

一点指摘したい。いまの委員のご意見はそのとおりで、逆に目標設定をしないとその見直しができないので、目標に対する指標に政策管理も入れていくことが必要になるので、入れればよい。市民提案制度は、特に環境分野独自のものではないが、環境分野で現在行われている取組みで、この制度を活用することで進められるものはないか。現在行われているものを全部並べるのではなく、さきほどの繰り返しになるが、取組みと現状、課題に対応する主な施策、という流れになると思う。また、4-1-3の③「環境情報の提供」のところについては、情報公開は、なにをやるにしても基本になる話なので、これは4-1-1「環境政策の総合的・計画的な推進」の次に、4-1-2として、「環境情報の公開、収集、提供」があって、その次に4-1-3「協働とパートナーシップに基づく施策の推進」というかたちにしたほうがよいのではないか。

○会長

「環境情報の提供」を移動させるのか。

○委員

独立項目で、4-1-1「環境政策の総合的・計画的な推進」の次に4-1-2として持つてくる。

○会長

それで、タイトルが1つずつ繰り返り下がるということか。

○委員

4-1-3が「協働とパートナーシップに基づく施策の推進」となる。ここもさきほど言ったように、支援と政策参加と、パートナーシップというふうに分けてもよいとは思いますが、独立させるほどボリュームがないということであれば、「協働とパートナーシップに基づく施策の推進」を一本にして、そのなかを三つに分けて、それで最後に「環境に関する教育・学習と意識啓発の推進」とするほうがよい。

○会長

現在の「環境情報の提供」の位置は、確かに座りがよくない。4-1-1に含めるか、あるいは4-1-2とするかということか。

○委員

そうである。

○会長

環境目標 1 の話は、とりあえずこのあたりで終わりたいが。

○委員

自分の専門分野のところ、たとえば自転車のところではどう関連するのかということを見ていた。目標 2、3、4 の話だが、その質がどういうふうに変わっていくかということが、環境目標 1 での多様な主体というようなことから考えると、例えば、さきほどの委員が、連携回数を計算するのともどう足し合わせるかという話があったが、回数ではなくて、あくまで主体であれば計算できないか。

○委員

それは、簡単だと思う。

○委員

そのこの主体の濃さを見るべきなのか、主体の濃さもここで見るのか。それはもう目標 2、3、4 で任せるのか、目標 1 で質のようなところを測って、参加している主体があったらよいのかということ、連携する数ではなくて、例えば連携主体数でよいのではないかと思った。

○委員

環境目標のところ、多様な主体とあるが「多様」というのはなにか。そこを説明できていないから、指標もばらついている。多様というのは、例えば、市民、事業者、行政、そして、市民のなかにも NPO、地域団体とあるはずである。例えば市民のなかでいうと、世代の違い、子ども、大人、熟年層、若年層などがある。地域別の主体で、テーマごとの主体というものもある。その多様性がなにかがちゃんと語られてないから、指標がざっくりになるというのを、ずっと歯がゆく感じていた。「多様な主体」というのをどう切り込んでいくのか。みどりの分野でいうと、自治会の活動などもあるわけで、そういうものが抜けている。多様性というものがなにか整理すれば、指標がおのずと出てくるのではないか。

○会長

ありがとうございます。現行計画を完全に変える必要はないが、その定義でいくと市民団体、事業主体、行政となる。しかし、さらに市民団体からの云々という話になると、テーマなどいろんな属性で分かれる。

○委員

おっしゃることは本当にそうで、もしきれいにやろうとすると、最初の「視点」で、「協働とパートナーシップをひろげます」と記述して、参加者の固定化、高齢化、若者の参加が少ないなどの課題を整理し、そして、なぜ若者が参加しないのか、それから例えば子育て世代が参加できてないというのはなぜできないのかということ、そこを説明して、そこができるような施策を打ち、それが測れるような指標を設定して、若者がこれだけ増えました

などと記載すれば、きれいにはなる。きれいだが、現実問題として、どこまで市がそれができるかということがあると思う。しかし、ひろげていくために、むやみになんらかのイベントをやったらひろがりましたということにはならない。データが出ていなくてもよいが、感覚として誰が見てもここが足りてないとか、この人たちが参加していないというところが測れるものについて指標を設定する。全部が難しかったら、今回はこの部分をやりましょうというところを考えることが現実的と考える。「多様」といったときには、単に環境だけではなくて、環境と福祉といったような領域間連携を頑張ろうという話で一致しているので、どれだけ進んだかということをごどこかに書き込んだほうがよい。それに対する指標があるかどうか分からないが、ただ、そういう書き込みが少ないことは事実である。そこをまず書き込む必要がある。

○会長

指標を設定するターゲットがあいまいになっている。現行計画では、目標を見て比較的シンプルにつくられているが、今回は、まさに指標が多様化している。指標を設定する目的、なにをめざしているかということ、ここで共通認識しないといけない。そういうなかで、さきほど委員から発言のあった連携回数、活動回数という話も、整理できそうな気がする。

とりあえずいままでの意見で、もう一度検討するというごことをお願いしたい。次に、環境目標5のほうにいきたい。

○委員

前日も申し上げたが、騒音の環境基準100%達成を目標とするが、達成できないということについてどのように評価するか。温暖化の分野でも、できない目標は立てない予定である。100%をめざすということがどうなのか。「達成状況100%をめざす」であれば、そういうターゲットに向かって頑張るということにまだなるのだが、目標の文言のなかに、「快適な都市環境」というのが入っているので、そのような印象を受けるのかもしれない。それから、この大気、ダイオキシン類、水質、道路騒音などの環境基準100%が達成されたときに、それは「快適」というよりは「健康」なのではないかという気もする。一番気になるのがこの航空機騒音の扱いで、0%を100%に持っていくことをめざすというのが気になるのと、それから第4次豊中市総合計画改定のなかでも空港の話が出てこないはずがなく、空港を活用してまちの発展に役立てると書くとき、騒音に対して配慮しつつという内容が入るはずである。そのときに、環境基準達成100%をめざします、という文章が第4次豊中市総合計画のなかに出てくると、それはおかしく映るのではないか。むしろ、環境基準達成をめざして、それぞれの測定ポイントの騒音値を下げていく、あるいは住宅の防音対策をもっとしっかりやって、住民の健康被害を抑えるということが現実的な政策、書き方になるのではないか。今回の書きぶりは、第4次豊中市総合計画と同時に改定していくというなかでは気になる。

○委員

それについては、温暖化対策というのほどどこまで低減すればよいという問題ではないが、環境基準は、健康項目と生活環境項目に分けて、望ましい環境目標として、法定でこれが守られないと困るということ設定しているものであるごので、法定目標を達成しなくてもよいということはいいがたい。豊中市は環境基準を達成しなくてもよいということにはならないので、温暖化の目標とは違う。ただ、削減努力が見えないといけないということであると、航空機騒音も少しずつは下がっているところを見せるといったごことが必要で、補助指標として、ある年から見たらどれぐらい改善されました、といった見せ方がよいのではないか。

○委員

毎年の環境審議会では、結局できたら「○」、できなかつたら「×」というふうにして
いる。5つある目標を同じように扱おうと、なにか少しニュアンスが違う。ここについては、
「×」にならないような、毎年の努力がなんらかのかたちで反映できるような評価をすべ
きだし、目標をめざしていければ「○」がつくような、評価につながるような目標の書き
方というのができないか。

○委員

前の年より、少しでも改善されていけば「○」、前の年より悪化してれば「×」といっ
た評価か。

○委員

そこが「○」か「×」かというところの判断は、多分環境審議会の委員の専門性という
か、責任に任されているところがあってよいのではないか。それは、そのときの政策や実
際改善した物理的な騒音値の変化を見て、その年の政策が環境の改善などによかったかど
うか判定するというのは、主観的な問題にはなると思うが。

○会長

この指標の設定の考え方を、まず整理しないとイケない。ほかの委員はいかがか。

○委員

指標はあくまでも数値ということか。

○会長

環境基準というのは法定目標で、厳然と存在している。

○委員

例えば航空機騒音であれば、伊丹市などと連携しているという話を以前聞いたことがあ
る。国や府、周辺地域、その他関係機関と連携しているのだから、それはそれで評価がで
きると考える。確かに、環境基準という面では、達成状況0%というのは正直な数値では
あると思うので、おっしゃることはよく分かる。ただやはり、伊丹市と協議しながらとい
うところは大切と考える。

○会長

指標に展開できる可能性はあるか。そういう解決に向けた動きをしているということが
評価できるということか。

○委員

そうしたことは、この第3次豊中市環境基本計画のなかで一番重要なことである。他部
局、他市、他地域との連携、国や府との連携などということは、特にそうではないか。

○会長

それが騒音の改善に具体的にどうつながるかという話が必要になる。

○委員

そのところが少し明確になれば、評価はできるかなというふうに思われる。

○会長

そういう取組みは大事である。

○委員

計画というのは、行政がなんらかの措置を、なんらかの政策を打つために計画をし指標で測っているわけで、ずっと0にしてしまうと、やってもやらなくともずっと0で、なにもやられなくなってしまうので、他の項目と並べて書くときには0でもよいが、特出しして、どのように少しずつ改善しているかというのは、必ず書いていくべきである。航空機騒音を測定しているところに人が居住しているかどうかというのは関係なく、地点の数だけで評価していると思うが、人が居住しているかどうかを考慮すれば、そこに人が住まなくなれば、ある意味改善したといえるのではないか。

○事務局

航空機騒音の測定ポイントだが、市で測定しているのは庄内の駅から北へ上がった、ローズ文化ホール（庄内体育館）、服部寿センター（豊島体育館の若干東）、豊島体育館のそばにある青年の家いぶきである。その周辺で、大阪府が測っているのが、ローズ文化ホールの南にある野田センター、青年の家いぶきの南側にある豊島温水プールのあたりで、生活空間がない地点ではない。それを割合で表しているのが、地点数がダイレクトに返ってくるということではない。

○委員

何回か議論しているが、航空機騒音の測定は住宅地域ではないところではなく、住宅地域のなかで測っているものなので、100%をめざしますを、95%めざしますなどしたり、航空機騒音は除きますといったことはできない。このため、補助資料として、昨年との経年変化を必ず入れ、指標の達成状況のほうにも一言でも入れるというのはどうか。あと前回の環境基本計画推進部会で出ていたのは、伊丹市はどういうふうに計測しているか調べておこうという話だったと思うが、これはどうであったか。

○事務局

まだ確認が取れていない。

○委員

では、また次回までに。

○委員

単純な疑問、意見だが、環境基準100%達成は100%でよいと思うが、例えば低炭素だったら2020年に何%、2030年に何%と目標を決めて、そこに何年かかけて向かっていくので、毎年いきなり20%減ったとは評価しない。航空機騒音は、目標値が100%だから次の年にいきなり100%になっているかどうかで判断される。この計画は10年の計画だから、10年後にオール100%めざすという計画を立てて、その10年間はその進捗状況を見てい

くというのではだめなのか。進行管理では、到達点を決めて、そこで100%達成をめざすほうがよいような気がするのだが、いかがか。

○委員

環境基準なので、基本的には現時点で達成されていることが望ましい目標ということになる。この計画達成年度に、この達成状況が30%になりますという見込みがあれば、それは書けるが、豊中市の努力でなにかできるかという、なかなか難しく、この問題の深刻なところである。環境基準自体の達成は、特に豊中市だけに課されたものではないので、国全体としての取組みも必要ということであると思うが、少しこれは分からない。基本的には、航空機自身が車と同じように個体で改善されれば、相当減ってくる可能性もある。

○委員

そういう機材がだいぶ変わって減ってきているが、ここで0%と出ると0%である。何回かご説明いただいたが、WECPNLという数値自体は改善している。ただ、さきほど伊丹の話があったが、伊丹市側は多分劇的に改善していて、それは機体が急上昇できるようになったからである。飛び上がる時にはすごく高く上がれるようになったので、離陸側の伊丹市ではすごく改善しているはずである。ちゃんと数字は見たことはないが。ただ、着陸側は、高度を変えるわけにいかないの、そんなに変わってないのではないかという、そういう認識でよいか。

○事務局

そうである。

○委員

伊丹市も多分環境基準は達成してないのではないかと思う。伊丹市が環境基準のいわゆる私たちが代表指標にしようとしているものを、なにで取っているかというのは、一度聞いてみたらよいと思う。

○委員

いまの議論のなかで、0か100かという数字だけではないという話では、低騒音ジェットが多分たくさん増えてきていると思うが、そういう機材の変化というか、そういうのは数値的に出せないか。プロペラ機が少なくなって、低騒音ジェットが増えてきているなどというのは、いままでの経過として数値的に出せないか。

○事務局

そのあたりは空港課のほうで把握しているので、一応出せるかと思う。

○委員

環境基準に対して0か100かになってしまうと、一般市民からすれば、さきほどからも議論されているように、こんなの意味があるのかというふうになってしまう。

○委員

若干でも新しい飛行機が導入されて、数値が下がったなど、さきほどおっしゃった着陸は無理だが、離陸のときに急高度で上がれば、騒音が低減されているというような話も具

体的に補助的に書いていただければ、ある程度は市民の方も理解は示していただけるのではないかというふうに思う。

○委員

31 ページでいうと、達成できないからこそ、働きかけと周辺地域の整備と環境改善に務めてきたという、これがまさに努力であれば評価できるが、ここでの「周辺地域の整備」というのはなにを指しているのか。

○委員

騒音対策など、そういう対策か。

○事務局

そうである。

○委員

騒音対策の完備率など、そういうのはやはり難しいか。騒音はあるが整備がなされているという評価、あくまでさきほどの委員がおっしゃった補助資料になると思うが、環境の問題の資料としては残しながら、このあたりの整備などは評価できるような数字が出せないか。

○事務局

空港課へ相談はかけたが、飛行機が着陸する際、滑走路に入るときの角度が約1度の確度で入るそうで、これはかなり限界の角度である。離陸のときは滑走路の端から急上昇すると、上昇側の地域はかなり音が下がっているが、着陸側でいうと、遠くへ着陸してもらえると、騒音は低減可能だが、それでオーバーランしてしまうと事故になるので、着陸側はどうしても手前側で着陸するので、その音は改善されないという状況があるようである。周辺地域の整備についてだが、着陸側で音が改善されないで、住宅側で改善しようというようなことがあって、民間防音工事、二重窓にして空調を補助するというようなことが、騒音規制法ではなくて、航空機騒音防止法があり、そちらのほうで対策できないときは、その家を買取りするというようなことが記載されている。当初、やはり航空機騒音が問題になったときは、どんどん住宅が移転していったので、当初は効果が数値的に見られたかと思うが、最近はそのあたりが飛び地になり、治安のことも考えられ、きれいに公園整備されている。また、空港があることを分かったうえで住宅が建ってきている。純粹に減っていたのが、今度は空港ありきで建っている建物に対しては、助成などが発生しないので、そのあたりの数字の上下がうまく表現できないというのが悩みである。件数もさることながら、騒音指定区域の面積的にも機材の更新によって対象エリアは狭まっていて、その表現も検討はしたが、それもどんどん日々変わってくるものではなく毎年変化するものではない。そこにまた新しい家などが建つということで、評価は難しいため、これぐらいしか評価指標が出てこないような状況である。

○委員

航空機騒音防止法で買取りしたところは、公園化などするのではないのか。また売ってしまうのか。新規に住宅になるというのが少し分からない。

○事務局

騒音指定区域のエリアから外れているようなところである。

○委員

航空機騒音防止法がかかり、買い取りしているところは、さすがに公園整備されているのか。

○事務局

そうである。

○会長

騒音指定区域は、いろいろ規制が変わるわけで、その近接のところではということか。

○事務局

おっしゃるとおり、低騒音機材が入ることによって、エリアが2段階ほど狭まってきている。それでもやはりエリアは狭まっているが、航空機騒音というレベルでいくと微妙な音は受けているので。

○会長

なかなか問題があるが、環境基準は法的なものなので、なかなか難しい。いずれにしても、意見としては、経済変化であるなど航空機そのものに関する改善策、それから要するに改善策にどう取り組んでいるかということは、やはり市民に対して発信しないと、なにをしているのかという話になる。そこは関連指標というか、プラスαの指標として、航空機騒音に関しては基本的には達成できないというのを認めたくえで、それをあげておく必要があるというのが、全体の意見という気がする。あとは、さきほど委員からあったように、大きな環境目標のところには100%と書くかどうかというような話がある。

○委員

言葉の感覚が少し違うだけなのかも分からないが、この書き方が「環境基準の達成状況100%をめざす」と書いてあったら、めざすというのは要するに100%でなければいけないという印象は強く出ないが、「100%で快適な都市環境をめざす」といわれると、100%にするのが大前提となり、100%をめざすというのが遠くにあるので、少しニュアンスが違うなという感じがする。例えば快適な都市環境のため、環境基準の達成状況100%をめざすと書いてあると、少し違うような気がするが、これはもう僕の感覚でもある。

○会長

さきほどの「快適な」というのが、これは法定目標であれば「健康な」となる。

○委員

「健康」だと思う。

○委員

事務局が説明したほうがよいのかもしれないが、私がいままでずっと市の方のお話を会議で聞いている限りでは、これは別のものである。環境基準は100%達成し、プラス、アメニティの向上をめざすという話だったので、二つのものがある。だから、環境基準だけ

ではなく、水やヒートアイランドなども入っているという話だったと記憶している。

○会長

要するに、環境目標で「快適な都市環境をめざす」という言い方をするならば、代表指標が環境基準のこの5項目だけではなく、例えば大気や熱帯夜など、そこも含めて評価するというような考え方をできるのではないかということである。ただ、水に関する指標というのは、「とよなか水未来構想」のほうで進行管理がされるので、これについてはその他の指標ということでよいと思うが、ここでもし、この環境基準だけではなくて、ほかの計画でされる進行管理の結果を含めて快適な都市環境をめざすということであれば、少しそこは評価のやり方が変えられるのではないかという気はする。環境基準の達成状況については100%をめざすというのはありだと思うが、この環境目標のところには、さきほどの委員がおっしゃるようにそこまで書かなくてもよいのかもしれない。環境基準の達成状況というか、そういう目標水準をめざして、かつ快適な都市環境めざすというような話もある気がする。ただ、努力部分をなにかやはり反映してというのは、進行管理をするうえで非常に重要なことと思う。ほかになにかご意見は。

○委員

それでいうと、この5つめの目標について全体的に気になったのだが、私が中学校の頃ぐらいまでは、まだ結構公害という発想があったので、中学校の授業などでパッチテストなどを家の軒先などにぶらさげたり、試薬のAとBで同じようなことをして学校の校区の空気調査をしたり、学校周辺の水質をみんなで測ってみたり、そういうものがあつたが、いまはもう31ページにもあるとおり、市民への情報提供を行うことだけが市民の参加のポイントになってしまっている。そもそも市の取組みとして、情報提供だけで議論していったらよいのか、そういうことを高齢者や学校、一般市民向けにやるのか分からないが、そういうなかでの市民参加という機会づくりと、そのことに対する評価というのがあるのではないかと思う。要は情報提供だと、市が情報提供して、市民にいかに伝わりやすいか、いかに聞き取りやすいかだけの話になる。それだけだと、市民はPM2.5の数値が高いなどは思うが、環境基準が100%に達していないことについては、数字は理解しても、実はこんなに全く達成してない状況と思って住んでいる人はあまりおらず、反対に、いまでも達成してないところもあるのかぐらいの感覚なのだが、そういうことを伝える場はなかなかない。それよりは、いまでも実は豊中の空気や水はどうなのかというのを、市民と一緒に考える機会をつくるという取組みがあれば、それはそれでよいのではないか。これは、行政がやるべき取組みか、私ども市民がやるべき取組みかというのは議論があると思うが、そういうものは生まれておらず、粛々と測って公表して、ということだけが多いと思う。

○会長

この環境基準や、快適に関わるような環境基準などの数値について、市民がこういう環境指標に対してどういうふうに感じているのかという感覚のようなものが、指標としてあがると面白いかといま思ったがどうか。そういう調査はやっていないのかもしれないが。

○委員

それは12ページの※3「市民意識調査（2年に1回）の結果」の話と思うが、※2「目標2から5までで、市民の関わりが見られるものを選定し、取組み状況を総合的に把握する。」というところをいうと、実はこの目標5では、いま言ったような直接的に市民の関わりが見られるものがないという話である。ヒートアイランドあるいは雨水タンクなど、さっきでいうと「快適な都市環境をめざす」ほうは市民の取組みがあるが、「環境基準

100%」につながるほうは、実は市民が参加するものがないので、そういう意味では、取組みを盛り込めば、※2のところの評価ともつながってくるのではないかということである。

○委員

取組みとしては、例えば生活排水対策などもあるし、それから自動車を使わないようにして排ガスを減らしましょうなど、そういうのはみんな市民側の取組みである。それからこの①「典型公害対策の充実」というところだと、PRTRが入っているので、PRTRをどういうふうに活用していくかということや、グリーンコンシューマーとも関係してくると思う。豊中市内では、PRTR対象事業場は多分二つくらいしかないと思うが、市民が公害を減らすために、生活公害対策としてやれることが多くあるので、そういうのを見せられるかという話である。考えればいろいろできることは施策としてはあるが、どこまでを基本計画の範囲内でできるか。でも確かに、そういう意味で市民側での生活公害に関するものがなにかあると面白いと思う。

○会長

確かに、前段のどのページにも都市生活型公害への対策というものがあがっていないから、そういうものに対する指標がやや欠けているというご指摘である。

○委員

さきほどから、事務局が冒頭説明のなかで目標2から目標4については、各個別の部会でと繰り返されていたが、目標4のみどりところなどでいうと、従来から「みどり率」「緑被率」などという議論があって、これは環境基本計画でどれを使うかということも全部部会に委ねるという理解でよいのか。そこは部会で議論されて、議論が深まったものはこの審議会へ出てくるという理解でよいのか。目標4のフレーズそのものも、それを部会で議論されているふうではないが、いずれまた部会で議論されるということなのか。同じ目標4でいうと、歴史、景観などがあって、それは少なくともみどりの基本計画策定部会では対処されていないように思うが、それもどこに委ねるのかといったことが気になる。

○会長

基本的には、この環境審議会の下に部会が位置している。だから部会で検討していただくが、完全に委ねているわけではなく、いわゆる最終はこの環境審議会でも議論して決めるという理解をしている。

○委員

部会で対象ではなかった、議論しなかったことについては、ここで発言をすればよいという理解でよいのか。

○会長

よいのではないか。

○委員

それとの関係でいうと、前回の環境基本計画推進部会で確認させていただいたのは、生物多様性については、みどりの基本計画で扱うか扱わないかという質問をして、みどりで

扱いますというご回答をいただいた。それでよかったか。

○委員

それはなにか私が聞いたトーンと違うように思うが。

○委員

事務局のほうで回答いただければ。

○事務局

みどりの基本計画のなかにおいて、生物多様性のことは盛り込むつもりでいる。

○委員

私は、みどりの基本計画策定検討部会のなかで、生物多様性をこれだけうたうのなら、地域戦略などは作られないかと聞いたが、取り組まないとおっしゃられた。同じ目標4に関する事で、盛り込むべき必要な事項として、この場で議論、提案をさせていただいて盛り込むべき事項もあるのではないかと。歴史、景観もそうだが、すべてが部会に委ねられることではなく、この場で議論すべき目標、中身もあると思うので、今後必要な時間を確保していただいて、議論すべきではないかということをお願いしたい。

○会長

それはそのとおりかと思う。

○事務局

確かに、各目標に対してはそれぞれの部会で審議いただいているので、最終的にそれぞれの部会で出たものを、事務局のほうで各関係課と相談して記載していくので、さきほど会長が言われたように、この環境審議会で最終議論していただくということで、事務局としては考えている。ただ、少し時間的に次回1月に環境基本計画推進部会があり、その後、環境審議会のほうでご議論いただくときに、目標2から目標4の部分をどこまで書き込めるか、どこまで審議していただけるかということがある。その部分については、事務局と各部局とで取組み状況を確認させていただくが、生物多様性の部分をどういう書き込みでいくかという議論まで、時間的に1回の環境審議会でするかは、事務局としては難しいと思っている。

○会長

次の環境審議会であがってきて、1回だけの議論で終わるのだったか。

○事務局

次年度5月以降も、環境審議会でご答申をいただく10月まで時間があるので、そのなかで書き込むということであれば、まだ時間的にはあるが。

○会長

それから、いまの委員からの提案で、審議期間についてはもう少し余裕を持って設定していただくほうがよい。今日でも、もうほとんど時間を費やしているので、部会から出てきた意見を事前説明するなど、ここでの審議時間についても少し検討いただきたい。

○委員

お願いだが、結局各部会の方々がここにも来ているので、その各部会では範囲外とされていたもので環境基本計画に盛り込むべきものがあれば、出していただいたほうがよいと思う。その前提として、事務局側でもそういう意見についてはテイクノートをして、環境審議会のほうに出していただくということがないと、また1から議論すると時間がなくなると思う。議論をされた論点について、各部会のほうで各委員の方々がやはりこの部分は足りないのではないかという、いまのようなご指摘があったら、そういう議論はおっしゃっていただかないと分からない。仮に欠席されたら分からない。環境審議会のほうで議論してもらいたいというご要望が出たものは、ピックアップして情報伝達をしていただくということが必要ではないかと思う。

○会長

一通りいろいろご意見いただいて、かなり盛りだくさんの話が出たが、これをふまえて事務局のほうでご検討をお願いできたらと思う。

2. その他

○事務局

その他案件について

○事務局

子ども（次世代）環境ワークショップの実施について報告

○委員

「第3次豊中アジェンダ21」策定の進捗状況について報告

○事務局

次回の環境審議会は平成29年2/2(木)AM10:00から、豊中市消防局3階大会議室で開催する。

○会長

これで終了したい。ありがとうございました。